

ポーランドの文化や歴史を生かした教育活動

御津郡建部町立福渡小学校

教諭 田中 耕二



1 ポーランドの概要

(1) 国土

「ポーランド共和国」は中部ヨーロッパの北部に位置し、ヨーロッパでは7番目の面積を持つ国で、イギリスとアイルランドを合わせたほどの大きさです。日本より小さく、九州と四国を除いた大きさと同じくらいになります。「ポーランド」(ポーランド語では「ポルスカ」という国名は、「ポーレ」(平野, 耕地)という語に由来し「平原の国」を意味します。現在人口は約 3.863 万人で首都ワルシャワの人口は 175 万人です。



(2) 気候・風土

緯度の関係で冬は日照時間が短い分長く感じられます。だからこそ3月下旬から4月の春の訪れは感動的です。人々はイースター(復活祭)と共に待ちわびています。時には雪がちらつくこともあります。一足飛びに新緑の季節を迎えます。

6月に入ると実質的に夏が始まります。現地の学校も6月末で夏休みとなり、7・8月はバカンスの時期となります。気温が上がっても日本のような湿度がないので、木陰はさわやかでエアコンは必要性が低いです。8月を過ぎると秋の訪れを日本よりも早く迎えます。秋は街路樹が紅葉し、「黄金の秋」と呼ばれる素晴らしい季節です。冬の訪れも11月中と日本より早く、雪は少ないのですが、寒さは厳しく-15度から-20度になることもあります。2月も中旬を過ぎると寒さの峠を越し、日照時間も次第に長くなっていきます。

(3) 経済

ポーランド経済は現在、かつてない速さで動いています。民主化と市場経済を取り入れて14年。ポーランドの1年や2年は日本の5年ぐらいの速さを感じられます。

ワルシャワではオフィス・ビルやホテル・マンションの建設ラッシュが続いています。ポーランドの急速な経済発展はまさにミラクル・チェンジといえるものの、人々の意識は急激な変化に追いつかない面もあり、サービス業など店により人により「売ってやる」という態度であったり、物をたずねても思いっ切り「ニエマ！（ない）」と返すだけという日本人にとってはショッキングな対応をされることがあります。無理もないことで、彼らは自分自身客としてのサービスを受けた経験もないのです。今後ますます競争原理が働いて、対応が悪ければ売れなくなる経済の厳しさの波をかぶる店もでてくるでしょう。なお、2001年統計のポーランドの1人当たりのGDP（国内総生産）は4,600ドル、日本はその7倍の32,600ドルとなっています。

（4）ポーランドの食事

17世紀のポーランドはリトアニアと連合王国となり、今日ポーランド料理の定番と



なったピエロギ（洋風ギョーザ）はリトアニアや中国料理の影響を受けているといわれています。スープは料理のスターターとしてポーランドでは欠かせないもので、中でも「ジュレック」というライ麦粉に香辛料を入れて発酵させた素朴な味は、ポーランド風味噌汁とでもいうのか日本人の口に合うものです（写真左）。

赤カブを煮込んだ「バルシチ」もあります。ロシア料理として知られる野菜や肉を入れたものは「ウクライナ風バルシチ」と呼ばれます。

「ビゴス」はザワークラウト（酢漬発酵キャベツ）に豚肉やソーセージなどを加えて一つの鍋で煮込む家庭料理で「猟師のシチュー」ともいわれています。ポーランドでは肉料理といえば豚肉が中心であり、大衆レストランでの定食に最もよく出されるのはポークカツレツ（コトレット）で山盛りのジャガイモにキャベツの付け合わせが付きま

（5）町の様子

ワルシャワの町を歩くといたるところにバザール（写真右）があります。野菜、果物、肉、衣料品、花などを露店、または小さな小屋で売る店が集まっています。土・日だけ営業している店や、毎日営業しているところなど、バラエティに富んでいます。新鮮な野菜を求めて、たくさんのポーランド人がバザールにやってきます。



食料品は、毎日食べるもの、パン、肉、野菜、果物、牛乳などはとても安いです。例えば牛乳は1リットルパックで60～80円くらいです。ビールやワインなどのアルコール類も安いです。ビールは500mlで60～100円ほどです。最近ではハイパーマーケットとよばれる大型スーパーがたくさんできました。ほとんどは、フランスやドイツなど西欧諸国資本のもので、どのスーパーも食料品、

衣料品， レストラン， 電気製品， クリーニング， 散髪， 郵便局などの用事をいっぺんに



済ませることができます。大型のショッピングモールもあります。ここには100店近くのお店や映画館が入っています。中には、日本食を扱うお店や日本食レストランもあり、土日には必ず日本人の知り合いに会います。

ワルシャワの公共交通機関は、トラム（路面電車，写真左）と路線バス，メトロ（地下鉄）です。地下鉄はワルシャワを南北に横切っている1線のみで，終点から終点まで乗っても約30分ほどです。路線バスは，市内至

る所を走っています。トラム，バス，メトロとも共通の切符で乗車することができます。

その他にタクシーがあります。料金は1km=2PLN（60円）です。

2 ワルシャワ日本人学校について

(1) 児童生徒数・授業形態

2004年9月現在，本科生の数は26名。この他，週に1度登校する本聴講生は4名。6月～7月はインターナショナルスクールや現地校に通う日本人の子どもが短期聴講生として一時的に入学します。

クラスは，低学年(1・2年)，中学年(3・4年)，高学年(5・6年)，中学部の4つです。授業は実技教科を除いて，単式授業を中心に行っています。

実技の授業（体育，図工，技・家，音楽）は，複式または合同で行います。2003年からは隣接している体育館を使用できるようになり，雨天時等の体育はそで行っています。また，水泳教室は春から実施し，秋から初冬にかけてはスケート教室を全校で実施しています。特別活動では，ポーランド理解学習や英会話も実施しています。



年度	94	95	96	97	98	99	00	01	02	03	04
人数	25	20	19	18	19	19	17	22	18	24	27

この10年の児童生徒数の変化

(2) 日本人学校の1年（2003年）

4月

○雪の中の入学式，始業式，着任式。新入生は，小学部2名，中学部3名の計5人。

○水泳教室開始。ワルシャワ農業大学のプールで。計10回。

5月

○週2時間の英会話授業開始。グリニッジ社との正式契約。

- クラクフでの領事サービス。小中学生に国語の補習授業（以後11月まで4回）。
- 漢字検定。計17名が受検。のちに全員合格が判明。

6月

- 全校キャンプ。ワルシャワ郊外のリニアにて。
- 中学年以上が国立オペラ座の見学。舞台裏なども見学。
- 毎日新聞パソコン入力コンクールを校内で初めて実施。ネットでの団体参加。
- 校舎南側壁のペインティング。（6月17日に2回目）。
- 日本人会共催大運動会をグバルディアの競技場で開催。

7月

- 隣接体育館を正式借用契約を開始。校庭に桜の木を植樹。
- 高学年・中学部修学旅行。クラクフ、アウシュヴィッツ方面の世界遺産を巡る。
- 低・中学年遠足。ワルシャワ動物園へ。ワルシャワ大日本学科学生4名ボランティア参加。
- 中学部、THE BOOMの宮沢和史氏と対面。リコーダーで「島唄」を披露。

9月

- PTA主催秋祭り。焼きそばやかき氷など、日本の味を再現。お祭り気分を親子で堪能。

10月

- 学習発表会。太鼓演奏、劇や体育、英語の発表。
- プウォツク市文化交流。「ジェチプウォツカ」のステージ発表を見学。音楽交流。
- 朝の気温マイナス6度。初霜を観測。（24日）
- 全校児童・生徒社会科見学。消防署と東京三菱銀行。



11月

- 土曜参観及び特別授業。同授業特別講師、河合泰郎氏「宇宙に飛び出せば」、牧田大氏「サッカー教室」。
- 嘉納治五郎小（ワルシャワ26番小）との交流会。太鼓演奏やけん玉紹介も。

12月

- 高学年、中学生がポーランド国会を見学する社会学習。本会議のもようを見学。
- スケート教室開始。トルバルの室内リンクで2月まで計8回実施。

1月

- 書き初め会。めあてや座右の銘など、自慢の力作を色紙に。
- PTA主催もちつき大会。午後は百人一首大会も。

2月

- 大使館料理人の松本崇広さんの特別授業（フランス料理教室）を実施。
- プレゼンテーション大会。1年間の学習の成果を、全員がパソコンを使って発表。

3月

- ワルシャワタイムで、ひな祭り。
- 第24回卒業証書授与式、修了式。卒業生は、小学部5名と中学部1名。

3 主な教育活動の実際

(1) 5大重点方針

①基礎・基本の徹底指導

音読指導，暗唱指導，漢字の先取り学習，100マス計算，英単語・基本文型テスト

②読書指導・図書館指導の拡充

朝読書の時間の設定，本の帯コンクール，夏休み読書感想文コンクール，全校3,000冊突破運動，図書室環境の整備（図書委員会）

③英会話能力の育成

週2時間の外国人講師による英会話の授業，NHK基礎英語テキストをつかった英会話学習，英単語検定，英会話表現検定，現地校との英会話による交流，学習発表会やワルシャワタイムでの英語学習成果発表

④情報教育の充実

校内入力検定，ゆびまるくん大会，毎日パソコンコンクールへの参加，インターネットによる調べ学習，e-mailによる現地校との交流，HP作成による情報発信



⑤コミュニケーション能力の育成

現地小学校との交流，ワルシャワ大学日本学科学生との交流，現地舞踊団との交流，夏休み作品研究発表会，プレゼンテーション大会，ワルシャワタイム，発言キャンペーン，学級スピーチ

(2) 文化や歴史を生かした教育活動

①ポーランドについて調べ学習

・週1時間のポーランド語学習の他，総合的な学習の時間においてポーランドについてのテーマ学習を展開。ポーランドの歴史や自然に目を向けた調べ学習の成果をプレゼンテーション大会で発表した。

- ・ワルシャワの乗り物
- ・ポーランドの王様
- ・ポーランドの世界遺産
- ・ポーランドの歴史上の有名人
- ・ポーランドの絶滅しそうな動物
- ・ポーランドの料理
- ・ポーランドの虫やザリガニ

中学年の調べ学習のテーマ

②ポーランド人との交流

・日本について学んでいるワルシャワ大学の日本学科学生との交流，ワルシャワ26番小学校（嘉納治五郎小学校）との交流，ジェチプウォツカ舞踊団との交流などを行っている。コミュニケーション能力の育成，英語学習の実践，ポーランド文化の理解，日本文化の発信など成果を上げた。



③中田厚仁，杉原千畝，キュリー夫人についての授業

・本校の卒業生であるカンボジアで殉職した中田厚仁氏，当時ポーランドからののが

れた多数のユダヤ人を救った杉原千畝氏，ポロニウムの発見でノーベル賞を受賞したキュリー夫人について教材を作成。

④ 修学旅行，社会科見学での学習

- ・ 修学旅行では，アウシュビッツをはじめ，ビエリチカ岩塩採掘場，クラクフ，トルニ，グダニスクなどポーランドの世界遺産を巡り，歴史や文化について実地に学ぶ。また，社会見学では，国会見学，警察署や消防署の見学をした。さらに，日本大使館，YKKファスナー工場，東京三菱銀行などへの見学も実施した。

